

北上市に省エネにこだわった木造2階建ての住宅がある。昨年9月に建てられた、会社員藤原隆幸さん(43)と妻里奈さん(38)が暮らす。真夏のこの時期、里奈さんが夕方に汗ばんで帰宅しても室温は27度ほどに保たれている。「家に入ると涼しいなあと実感します」この家が本領を発揮するのは冬だ。外が零下10度でも、ヒートポンプで温めた不凍液を各部屋のパネルヒーターに循環させる暖房で家全体を20～22度に維持できる。床暖房のないフローリングで靴下一枚で過ごす。「掛け布団の枚数が少なくて済むし、狭心症で倒れる心配もありません」

~みちのく2012~

1

# 断熱で省エネ住宅

## 北上 冬でも家全体20度

通常の2倍近い厚さ18ミリの断熱材を入れ、屋根と床にも厚い断熱材を施して窓には特殊な膜で覆つた。窓には特殊な膜で覆つたペアガラスを入れた。

田代表（左）と藤原さん夫妻＝北上市

北東北地域の目標値1・9を大幅に下回っている。

6月までの太陽光発電による売電金額が電気料金を2万円余り上回った。建てたのは地元の日高見工務店。千田稔代表は「地域密着の工務店として寒冷地である岩手にふさわしい家をつくりたい」と省エネ住宅に力を入れてきた。岩手では2006年、ヨーロッパ並みの省エネ住宅の普及をめざす民間組織

「Q値をしつかり計算しコストと性能で顧客に最適な住宅を提案できる工務店を増やしたい」と話す。

(座長)佐々木隆・県立大盛岡短期大学部教授)が発足した。工務店や設計事務所、建材会社などが会員となり、Q値1・0以下の住宅を認証している。

照りつける太陽、海岸に吹き寄せる風、冷えた地下  
水、熱い温泉——。東北はさまたまな自然エネルギー  
にあふれ、うまく活用している人たちがいる。二酸化  
炭素の削減や「脱原発」への道のりは何も我慢ばかり  
ではない。各県での取り組みに豊かな暮らしが新たな  
産業へのヒントを見た。

「Q値をしつかり計算しコストと性能で顧客に最適な住宅を提案できる工務店を増やしたい」と話す。

と、平均的な世帯の年間消費電力量は約5650キロワット時。藤原さん宅で試算すると年間4285キロワット時を発電する。住宅性能

国土交通省は今年度、補助制度を設けてゼロ・エネルギー住宅の建設を促進する。  
東北の住宅のエネルギー消費は暖房が4割を占め

らない」あるが、「えたい」の全校集会を開けがを校の校長の連絡で月の家庭た様子は校長は「く、特に過ごしていくこと」ということショック両校を会の教育者会見を応を明ら

支援金付商品の  
継続的な復興支援